

審査の結果の要旨

氏名 徐東千

徐東千による本論文は1864年～1910年のソウルにおける建築と都市の変化を考察したもので、研究の適合性に関して以下のように整理する。

意義：本論文は序論で述べられている通り、既存の研究における対象時期に関する解釈は、西洋化が進んでいた時期と捉える論点が多く、それに対して、本研究では復古の傾向を探し出した点、中国と日本の影響関係を明確にすることで、対象時期の分析における多様な観点を提供した点にあると判断される。

構成：本論文は2部で構成され、第1部では、韓国人の西洋建築についての認識と西洋人の韓国建築についての認識という二つに焦点を当てて、互いの認識を探っている。第2部ではソウルの建築と都市の時期別の経年変化の詳細を分析し、建築と都市の方向性を考察する。第1部は論文の前提としての役割となり、第2部では第1部で提示された課題を具体的に分析する方向で論旨を展開してある。以上を通して、ソウルにおける建築と都市の変化における方向性を導き出し、本論文の最も重要なキーワードである、復古、中国化、日本化、西洋化の関係を解明した。

研究方法：本論文の研究方法は、既存の研究で対象にしていなかった史料を駆使し、多様な試みをしたことで、独創性がある。対象時期の韓国の建築と都市に関する史料は少なく、それを補足するため、当時の韓国の政府文書だけでなく、日本で刊行された新聞と単行本、そして西洋人の個人記録まで含めて分析の対象とし、多様な観点から対象時期を解釈する作業を行っている。これがソウルの建築と都市の変化における新しい事実の発見につながった。

独創性：1864年から1910年までのソウルの建築と都市のあり方を分析した本論文は、二つの重要な発見がなされた。第一は、復古、中国化、日本化、西洋化という、当時のソウルの多様な方向性の共存を解明した点である。第二は、実証的な作業を通してソウルの建築の変化と都市の変化における密接な関連性を明らかにした点である。

よって、本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。